

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 総合学科高校の特色を活かし、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現で生徒の学ぶ力と自信を育む学校。  
○健全な市民を育成し、地域や社会を活性化する有能な人材を輩出する、地域から信頼される学校。  
○地域との連携、地域への貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成を実践する学校。  
＜本校の総合学科としてのスローガン＞

- ①「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科
- ②「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科
- ③「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科
- ④「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科
- ⑤「地域に開かれた魅力ある学校」を目標に地域社会と連携・協力する総合学科

## 2 中期的目標

創立20周年（2020年度）を目標に、更なる本校の取組みの充実をめざすための3年間を見据えた中期目標とする。

## 1. 「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科

(1) 魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い…総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲の向上と進路実現へ向けての実力の育成

※7つの系列のさらなる特性を生かした地域貢献の取組みや、授業での外部講師等の活用で魅力ある総合学科の充実をおこなう。

※きめ細かい指導で生徒の学習への意欲、習慣、興味・関心の向上で進路実現に必要な基礎学力の向上

(2) 入学から卒業まで3年間を見越したキャリア教育の実践…生徒の多様な進路実現への支援

①中退率の減少 …生徒の基本的な生活習慣や中高連携の緊密化、スクールカウンセラーの活用等を通して中退防止に努める。

※今後3年間で中退率府平均2%以下（平成29年度2.7%）を目標とする。

②進路未決定者の減少 …進路未決定率が8%（浪人生を除く）と3年連続で8%以下になった。高校生活3年間を見越したキャリア教育を実践して生徒の進路意識を高める。

※進路未決定率8%（平成29年度）を減らし平成32年度には7%以下とする。

③就職決定者の増加 …高校生活3年間を見越したキャリア教育の充実、応募前職場見学の実施によって、就職指導を一層充実させる。

※就職内定率100%（平成29年度98.6%）を毎年維持する。とくに就職試験一次合格者を75%以上（平成29年度92.6%）を維持する。

④中堅私立大学進学の実現 …「未来創造室」を活用し大学・短期大学への進学情報の提供と補講等の充実により、進学希望者をサポートする。

※平成29年度以降も毎年10名以上の中堅私立大学合格者を輩出する（平成29年度5名現在値）。

## 2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科

(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …取組みの重点項目、①授業規律②欠席・遅刻指導③服装・頭髪指導④あいさつの励行

※挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風を育む。

※遅刻者総数については、平成29年度（1281名2学期末値）から現状を維持しながら、2020年度には年間遅刻者数1500以下をめざす。

※平成29年度は59.6%だった生徒向け学校教育自己診断の全般の項目に関する肯定感の平均を向上させ、2020年度には肯定感65%以上をめざす。

(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心（帰属意識）の向上

①クラス活動の活性化…体育祭・文化祭等の行事や日々のホームルームを通じてクラス活動の活性化を行う。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成29年度は57.1%だった「クラス活動は活発である」の肯定感を毎年3ポイント以上向上させ、2020年度には肯定感60%以上をめざす。

②生徒会活動の活性化…毎日の挨拶運動や学校行事の企画・運営など現在の生徒会執行部の活動を継続・強化していく。

※生徒会が中心となって「生徒による学校活性化プロジェクト」を開始、創立20周年に向けたプランニングの作成。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成29年度は58.4%だった自主活動に関する項目の肯定感の平均を向上させ、2020年度には肯定感60%以上をめざす。

③クラブ活動の活性化…平成29年度のクラブ加入率は40.2%と前年度より微減した。平成30年度からも体験入部の工夫や積極的な勧誘によって新入生のクラブ加入率を高めていく。 ※クラブ加入率を毎年3ポイント以上向上させ、2020年度には、50%以上をめざす。

## 3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科

(1) 魅力ある授業で生徒の学習意欲の向上

①「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ、生徒の高校生活や進路への自信を育む

※教員の教材研究・研究授業の活性化、授業力向上のための校内研修、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察等により教員の授業力の向上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における学習指導の肯定感の平均を向上させ、2020年度には60%以上の肯定感をめざす。

②進路実現へ向けた「基礎・応用・実践力の養成」を授業の中で展開

※英検など各種資格・検定などへの生徒の興味付けを進め、生徒の学習面での伸びしろを引き出す取組みを行う。

## 4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科

(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ

教育システムを構築しインクルーシブ教育の更なる実践を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 29 年度は 62.2%だった共生推進に関する肯定感の平均を 60%以上に維持する。

(2)人権教育の更なる充実 …障がい者理解、同和問題や在日外国人問題など人権HRを充実させることで生徒の人権意識を育み、豊かな心と人権感覚豊富な生徒の育成。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 29 年度は 66.2%だった人権教育に関する肯定感の平均を毎年 60%以上に維持する。

(3)教育相談活動の充実…教育相談委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進するとともに、教育相談委員会と人権教育推進委員会との連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。

5. 「地域に開かれた魅力ある学校」を目標に地域社会と連携・協力する総合学科

(1)地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成 …幼・保・小・中・大の各学校や、東大阪市子育て支援センター・公民館・瓢箪山商店街等とのコラボレーションを促進、縄手北ふれあいネットワーク、瓢箪山まちづくり協議会、枚岡中学校区地域教育協議会など地域行事にも積極的に生徒が参加することで、生徒の自己有用感や自己効力感、自他への肯定感を育む。また各系列の特色ある学習の取組みや生徒会活動を通じ地域貢献を押し進め、地域から信頼される学校をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 29 年度は 54.6%だった地域連携に関する肯定感の平均を毎年 2 ポイントずつ押し上げ、2020 年度には 60%以上の肯定感をめざす。

(2)家庭・保護者との連携 …家庭との連携を密にするとともに、学校行事やPTA活動への保護者の参加率を高め、保護者と学校が協力し生徒を育てる校風をつくる。

※保護者向け学校教育自己診断において、平成 29 年度は 41.0%だった参画に関する肯定感を毎年 3 ポイントずつ押し上げ、2020 年度には 55%以上にする。

(3)校内組織の連携と情報発信力の強化 …各種会議と分掌・学年間の連携を強化するとともに、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れる。

※教職員向け学校教育自己診断において、平成 29 年度は 57.3%だった学校経営の肯定感平均を毎年 3%ずつ引き上げ、2020 年度には 65%以上にする。

6. 教員の働き方改革について

府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進として次の取組みを行う。

(1)全校一斉退庁日の設定

本校では毎水曜日が全校一斉退庁日となっている。緊急時の対応以外は午後 7 時まで退庁する。

(2)ノークラブデーの明確化

部活動を行わない日をクラブ毎に週 1 回設定をしている。各部活動のノークラブデーを掲示するなど明確化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【総論】</b>                      ○昨年度と同様に教職員の努力の結果、生徒の授業規律及び基本的な生活習慣の確立など、生徒の学校生活はよくなっている。                      ○学校教育自己診断の提出率は、生徒は H29 年度とほぼ同じの 94.7%であった。保護者は H29 年度の 48.0%から 45.0%に微減した。教職員は 100%であった。                      ○生徒においては、肯定感が微増した項目もあれば微減した項目もある。分類別でみると、生徒指導及び人権教育が若干増加した。全教員が一枚岩で生徒指導に取り組んだ結果の表れであると考えられる。自主活動が若干減少した。学校行事については検討の余地があると考えられる。                      ○保護者においては、教育相談以外ほとんどの項目が微増であった。特に地域連携と情報提供が上昇している。携帯連絡網で毎日情報を配信している効果の表れであると考えられる。                      ○教職員においては、2/3 の項目で肯定感が上昇した。分類別でみると、特に総合学科と自主活動が上昇している。</p> <p><b>【学校経営】</b>                      ○昨年度に比べて増加した項目もあれば減少した項目もある。                      ○各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能しているが 52.3%、各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能しているが 60.0%とかなり昨年度より上昇した。教職員間の情報共有と連携が円滑に行われている。</p> <p><b>【学習指導】</b>                      ○生徒においては、8 項目中 6 項目が上昇し、平均も 2.1%上昇した。特に、授業規律が 68.2%と昨年度より 7.5%上昇している。教職員の授業規律を大切にしている指導の表れである。                      ○保護者においては、昨年度とほぼ同じである。授業規律が 63.1%と生徒と同様に昨年度より上昇している。授業の様子が生徒を通じて保護者に伝わっていると考えられる。                      ○教職員においては、昨年度とほぼ同じである。ただし、到達度の低い生徒に対する学習指導について、全体的課題として取り組んでいるが 72.9%とかなり上昇している。これは今年度、人権教育推進委員会を中心に全校的に取り組んでいる結果である。</p>	<p>第 1 回 6/13 (水)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校運営協議会について</li> <li>2 保護者からの意見書の提出状況について：なし</li> <li>3 学校の現状と課題について</li> <li>4 学校協議会委員からの意見・提言等</li> </ol> <p><b>【中学校から見た本校の取組みについて】</b>                      ○地域に開かれた魅力ある学校、母校愛を育てる取組みを一つひとつ積み重ねていくことが学校の発展につながる。  <b>【あいさつについて】</b>                      ○連携先の施設でしっかり挨拶ができるようになったのは、日ごろの指導の成果である。  <b>【体育祭について】</b>                      ○今年の体育祭は生徒たちが自分たちで作上げようと努力をし、また、先生たちもそれを支え、例年になくまとまりのあるものだった。  <b>【広報活動について】</b>                      ○中学生が高校選びの際に、8、9割が学校のホームページを見ている。                      ○ショウフウジャーやさまざまな良い取組みをホームページで広報してほしい。                      ○ショウフウジャーの掲載された新聞記事を中学校で先生方に配布した。中学校でも枚岡樟風高校について発信していきたい。  <b>【学校生活を楽しくすることについて】</b>                      ○1 年次のワクワクドキドキの取組みは良い取組みである。  <b>【今後について】</b>                      ○枚岡樟風高校を取り巻く状況は厳しいが、魅力ある学校としての取組みを今後も進めてほしい。</p> <p>第 2 回 (11/14)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業見学</li> <li>2 保護者からの意見書の提出状況について：なし</li> <li>3 平成 30 年度学校経営計画の進捗状況について教頭より説明</li> <li>4 本校の学校経営方針、育む生徒像について校長より説明</li> </ol> <p>学校協議会からの意見・提言等</p> <p><b>【全般について】</b>                      ○進路指導、生徒指導、地域連携について先生方はよくやられている。</p>

<p>【生徒指導】</p> <p>○教職員の日々の指導と努力の結果、遅刻の激減、頭髪・服装違反者の激減、授業規律の確立がなされ、生徒たちが落ち着いた学校になった。</p> <p>○生徒においては、全項目で肯定感が増加している。学校生活での基本的習慣の確立に力を入れていること、教職員が協力して生徒指導にあたっていることなど、日々の取組みの積み重ねが反映されている。今後もさらに全教職員で生徒指導を取り組んでいく。</p> <p>○保護者において、全項目で肯定感が増加している。今後もさらに保護者の協力と理解を得ながら生徒指導を取り組んでいく。</p> <p>○教職員の生徒指導に関する肯定感は全体的に昨年度より微減した。特に、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導が76.9%と昨年度よりかなり減少した。これからもさらにカウンセリングマインドを持って生徒指導を全教職員で取り組んでいく。</p> <p>【自主活動】</p> <p>○生徒の肯定感は4.7%減少、保護者はほぼ同じ、教職員では6.6%増加した。特に、学校行事については生徒と教職員との間に乖離がみられる。学校行事については今後検討の余地があると考えられる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○生徒の肯定感は全体的に微減した。保護者の肯定感は微増している。今後も継続して計画的な進路指導を行っていく。</p> <p>○教職員の肯定感は昨年度より微減したが、それでもほぼ90%である。これは、教職員の熱心な指導が就職内定率の上昇や進路未決定率の減少などにつながっていることに要因がある。</p> <p>○未来創造室の利用が45.8%と昨年度より微減している。さらに活用していくようにする。</p> <p>【地域連携】</p> <p>○生徒においては、肯定感は昨年度とほぼ同じ。保護者で9.4%、教職員で8.6%それぞれ肯定感が上昇している。各系列の授業での地域の方たちとの交流が進んでいることと、クラブ員による地域貢献活動が生徒に定着してきていること及び新聞に取り上げられた効果の表れである。</p> <p>○今後も地域の学校園や商店街・企業等との関係を重視して、地域から信頼される学校づくりを行っていききたい。</p> <p>【保健指導・安全教育・美化】</p> <p>○生徒においては保健指導・美化活動が微増している。安全教育が昨年度より5.7%減少している。保護者と教職員は昨年度より肯定感が上昇している。安全教育をさらに継続して取り組んでいく。</p> <p>【人権教育・教育相談】</p> <p>○生徒においては、人権教育は微増し、教育相談は微減している。これは計画的に人権学習がHR等で行われていることの表れである。保護者・教職員でも人権教育が微増し、教育相談が微減している。生徒にとって相談しやすいように、さらにカウンセリングマインドを持って対応するようにする。</p> <p>【共生推進】</p> <p>○肯定感は生徒・保護者・教職員において、いずれも昨年度より微増している。これは本校の共生推進教室の「ともに学び、ともに育つ」というコンセプトが浸透し、インクルーシブ教育が行われていることの表れであるといえる。</p> <p>○共生推進教室の生徒はクラブ活動にも参加し、大阪府の代表に選ばれるなど学校生活の中で鍛えられている。</p> <p>○インクルーシブ・ルームを有効に活用して、今後も大阪府のインクルーシブ教育のモデルとなるような実践に励んでいきたい。</p>	<p>【地域連携について】</p> <p>○保育系列の生徒が保育実習で親御さんに声を掛け積極的に関わっていた。</p> <p>○工業デザインの生徒が作ったクマ椅子を園児に届けていただいた交流は有意義だった。</p> <p>○地域とともにある学校、地域の支えが大きな力になっている。</p> <p>【クラブ活動について】</p> <p>○クラブ加入率5%増加したことは大きな伸びで、今後に期待したい。</p> <p>○共生推進教室の生徒がクラブで活躍していることは大きく評価している。</p> <p>【授業について】</p> <p>○3年生は進路を控えて、緊張感がありよかった。</p> <p>【施設について】</p> <p>○廊下の照明をLED化され、大変明るくなった。</p> <p>【人権意識について】</p> <p>○共生推進教室の生徒と「ともに学び、ともに育つ」ことにより、人権意識が醸成されている。</p> <p>【自己肯定感・自己有用感について】</p> <p>○生徒をほめて自己肯定感、自己有用感を育てることは大切なことである。</p> <p>第3回（2/15）</p> <p>1 保護者からの意見書の提出状況について：なし</p> <p>2 今年度の取組みと平成30年度学校教育自己診断のアンケート結果について出された意見</p> <p>○首席の先生が受験志願者の開拓をされているが、中学校訪問は今後も地道に頑張ってもらいたい。</p> <p>○大学の入学定員が文科省により厳格化され、苦戦されているということだが、進学希望の生徒のために、大阪の校長会から声を上げ、文科省に働きかけてほしい。</p> <p>○地域連携で取り組んでいる子育てセンター「あさひっ子」での生徒による連続講座では、利用者の方たちから充実した内容であり親子で楽しめたと感想をいただいている。</p> <p>○共生推進教室の存在が、先生だけでなく生徒の人権意識を高めている。</p> <p>○枚岡樟風高校は総合学科で、普通科ではないということがはっきり分かるように中学生にアピールができていたらと思う。</p> <p>○生徒指導が充実してきているので、次は授業で勝負という段階に来ている。大事なのは学校の雰囲気作りが大切。</p> <p>3 平成31年度学校経営計画について出された意見</p> <p>○PTAへの参加率が先生方も保護者も低い値になっている。保護者については、懇談会で声をかけていただきたい。また、ケータイメールへの登録も簡単にできるよう、QRコードを配ってほしい。</p> <p>○生徒の肯定感を高めるためには、自信をつけさせることが大切だと思う。</p> <p>○これまでやってこられたことの上に、何を積み上げていくかが大切。</p>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科	<p>(1) 魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い</p> <p>(2) 入学から卒業まで3年間を見越したキャリア教育の実践</p>	<p>ア、総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲の向上と進路実現へ向けての学力の育成</p> <p>イ、7つの系列のさらなる特性を生かした取組みや系列での地域貢献や授業での外部講師等の活用で魅力ある総合学科の充実をおこなう。</p> <p>・各系列とも①地域連携②中高連携③高大連携等の形態のいずれかを実施し、生徒を鍛える場とする。</p> <p>・「探究」発表大会を充実させ、系列ごとの成果を次年度に継承する。</p> <p>ウ、系列に広報担当を設置し、系列での実践をホームページ等でリアルタイムで発信する</p> <p>・きめ細かい指導で生徒の学習への意欲、習慣、興味・関心の向上で進路実現に必要な基礎学力の向上</p> <p>①中退率の減少</p> <p>ア、毎月の教育相談委員会に中退防止の視点を加え、学年との連携を強化する。</p> <p>イ、家庭との連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、社会福祉施設等の関係機関とも連携も行う。</p> <p>ウ、生徒の出身中学校との連携を強化し生徒支援の助言を得る。</p> <p>②③進路未決定者の減少と就職決定者の増加</p> <p>ア、「未来創造室」を有効に利用した指導で、進路未決定率を毎年3%ずつ減少させる。</p> <p>イ、「3年間トータルの進路指導計画」に基づき、進路指導部と学年、系列で連携した入学から卒業までを見越したキャリア教育を行っていく。</p> <p>・1年次より、各分野の講師を招いての講演会を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底し系列選択のミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。</p> <p>・2年次では、インターンシップ、オープンキャンパスへの積極的な参加への推進を行い、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習内容を大学・専門学校など学校外の資源を十分に活用しながら充実させる。</p> <p>③3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、面接指導・応募前職場見学参加指導を充実させ進路実現の実績を向上させる。</p> <p>(4) 複数名の中堅私立大学の合格者輩出</p> <p>ア、「未来創造室」を有効に活用する。</p> <p>①進学情報の提供を活発に行う。</p> <p>②1年次から学力生活実態調査を実施し、個々の生徒の学力状況を把握し、状況に応じた指導を行う。</p> <p>イ、保護者向けの進学説明会を実施し、経済的な面を含めて、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。</p> <p>ウ、夏期休業中は、全学年で講習を国・数・英で開催する。必要に応じて社会・理科・小論文の講座も開く。</p>	<p>ア、イ学校教育自己診断の全般(学校に行くのが楽しい、この学校に入学してよかった等の項目)が60%以上。(H29:59.6%)</p> <p>・系列の専門性と多様性の向上</p> <p>左記①～④の実施回数</p> <p>① H29:40回)</p> <p>② H29:4回)</p> <p>③ H29:3回)</p> <p>① 中退率の減少</p> <p>中退率の減少2.0%未満(H29:2.7%)</p> <p>ア～エ、教育相談委員会の開催回数の維持(H29:11回)</p> <p>ウ、中高連携の緊密化(H29出前授業2回、中学校での学校説明会3回)</p> <p>(2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加</p> <p>ア、イ、</p> <p>・進路未決定者の割合7.0%未満を維持(H29:8%)</p> <p>・就職内定率95%以上(H29:98.6%)</p> <p>・就職試験一次合格率70%以上を維持(H29:92.6%)</p> <p>・インターンシップ参加者数の推進(H29:132人)</p> <p>(4) 複数名の中堅私立大学合格</p> <p>ア、イ、大学合格実績</p> <p>・人文・理数系列及び農と自然系列において産近甲龍等の合格者輩出(H29:0名)</p> <p>・情報系列及び工業デザイン系列において大阪工業大学・大阪電気通信大学合格者輩出(H29:1名)</p> <p>・福祉・保育系列において大阪樟蔭女子大学・関西福祉科学大学合格者輩出(H29:2名)</p> <p>・全系列において摂南大学・桃山学院大学・関西外国語大学等の中堅私立大学合格者輩出(H29:0名)</p> <p>・進路説明会回数(H29:2回)</p> <p>ウ、夏期講習30名以上の参加(H29:24名)</p>	<p>ア、イ学校教育自己診断の全般が62.5%(H29:59.6%)で2.9%増加した。(○)</p> <p>①地域連携23回(生徒会2、地域文化6、農と自然3、工業デザイン1、福祉保育11)(H29:40回)(△)</p> <p>②中高連携3回(H29:4回)(△)</p> <p>③高大連携4回(H29:3回)(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均は1.9%増加して56.5%であった。(H29:54.6%)(○)</p> <p>【課題】生徒向け学校教育自己診断の結果は少し増加した。地域連携は年々活発になっており、地元での本校に対する信頼度は確実に上昇している。生徒が地域の幼保小中学校園の児童生徒を教えるなどの企画を積極的に行い、地域から信頼される学校づくりを進めていく。</p> <p>①中退率は1.2%(H29:2.7%)であった。(○)</p> <p>教育相談委員会の開催は11回(H29:11回)であった。(○)</p> <p>ウ、出前授業2回、中学校での学校説明会3回(H29出前授業2回、中学校での学校説明会3回)で、さらに連携が必要である。(○)</p> <p>(2)(3) 進路未決定者の減少と就職決定者の減少</p> <p>ア、イ、</p> <p>・進路未決定者の割合8.7%(H29:8.0%)(△)</p> <p>・就職試験一次合格率76.5%(H29:92.6%)(△)</p> <p>・インターンシップ参加者数38名(H29:132人)(△)</p> <p>①年間3回の基礎学力テストを行うなど基礎学力の充実に努めている。また、入学前の宿題を課し、R-CAPを新たに取り入れた。職業体験、業種別ガイダンス、進路講演会を実施した。(○)</p> <p>②2年生では、インターンシップ、オープンキャンパス及び校内実習のいずれかを全員が行い進路意識を高めた。(○)</p> <p>【課題】一次合格率がかなり減少した。これは公開求人などで倍率の高い企業・職種を受験したからである。合格率を上げるよう、生徒たちの基礎学力を向上させる。</p> <p>(4) 複数名の中堅私立大学合格</p> <p>大阪電気通信大学4名合格</p> <p>関西福祉科学大学4名合格</p> <p>今年度より大学入試における定員数の厳格化に伴い合格率が激減した。(△)</p> <p>ウ、講習会38名(H29:24名)参加(○)</p> <p>夏休みでの講習会は個別対応で行った。入試前の冬休みに講習会を行い38名の参加があった。</p> <p>【課題】定員数の厳格化に伴い、合格を勝ち取るよう実力をつけるとともに、指定校推薦制度の活用やAO入試対策を行うようにする。</p>

大阪府立枚岡樟風高等学校

<p>2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科</p>	<p>(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。</p> <p>(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心の向上</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ</p> <p>ア. 生徒会、全教職員による挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風をつくるとともに、生徒の学校生活への規範意識を育む。</p> <p>イ. 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。</p> <p>ウ. 服装・頭髪指導の学年間の基準の統一に努めるとともに、イエローカード制度の運用に関しての教職員の認識を共有化して、生徒の規律性の育成を図る。</p> <p>エ. 問題事象について事例検討会を開催し、問題事象への対応方法や指導方針に関して教職員全体の共有化を図る。</p> <p>①クラス活動の活性化</p> <p>ア. 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。</p> <p>イ. 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。</p> <p>ウ. 保健部が中心となり毎日の清掃等の徹底を図る。</p> <p>②生徒会活動の活性化</p> <p>ア. 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。</p> <p>イ. 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。</p> <p>ウ. 朝の挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p> <p>エ. 生徒会が中心となって「生徒による学校活性化プロジェクト」を開始創立20周年に向けたプランニングの作成</p> <p>③クラブ活動の活性化</p> <p>ア. クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ</p> <p>ア～エ.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のあいさつができていた自己評価の調査をおこなう。</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感3ポイント以上の上昇(H29:60%)</li> <li>・遅刻者数10%減少</li> <li>・懲戒件数10%減少(H29:遅刻者数1622)(H29:懲戒件数45件)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感の上昇(H29:57.6%)</li> </ul> <p>① クラス活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感の上昇(H29:57.1%)</li> </ul> <p>② 生徒会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による学校活性化プロジェクトの検討</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感の上昇(H29:57.3%)</li> </ul> <p>③ クラブ活動で鍛える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率45%以上(H29:40.2%)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇(H29:64.2%)</li> </ul>	<p>(1) 授業規律は昨年度同様、格段に良くなった。頭髪、服装違反もほとんどなくなり、遅刻数も激減して、基本的な生活習慣が確立してきた。懲戒件数は減少した。</p> <p>ア～エ.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感7.5%増加して68.2%(H29:60.7%)(◎)</li> <li>・遅刻者数は1980(H29:1622)(△)</li> <li>・懲戒件数は34件(H29:45件)(◎)</li> <li>・生徒指導の事例検討会の開催1回(H29:1回)(○)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感6.2%増加して63.8%(H29:57.6%)(○)</li> </ul> <p>遅刻撲滅週間、授業規律及び服装強化週間を設定しメリハリのある指導を行っている。</p> <p>【課題】次年度以降も現在の生徒指導体制を継続・進化させるため、各種キャンペーン指導週間の設定などの工夫を継続していく。</p> <p>① 育祭や文化祭におけるクラスの催しはレベルが向上してきている。生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感は昨年度とほぼ同じで、56.6%であった。(H29:57.1%)(△)</p> <p>【課題】ホームルーム活動と生徒会活動の連携をはかるため、生徒の委員会活動をさらに活発化していく。</p> <p>②生徒による学校活性化プロジェクトとして、学校キャラクターの作成に取り組んだ。しかし、生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感4.8%減少して52.5%であった。(H29:57.2%)(△)</p> <p>【課題】生徒会活動が年々停滞化している。さらに、生徒の自主的な活動を育てていきたい。</p> <p>③情報発信や体験入部等の工夫を行い、部活動加入率は5.9%増加して46.1%であった。(H29:40.2%)(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感昨年度とほぼ同じ62.3%であった。(H29:64.2%)(△)</p> <p>【課題】部活動は年々活性化している。しかし、加入率はまだ低い水準にとどまったままである。新入生勧誘にさらに力を入れ、新たな対策が必要である。</p>
<p>3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科</p>	<p>(1) 魅力ある授業で生徒の学習意欲の向上</p>	<p>①「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ生徒の高校生活や進路への自信を育む</p> <p>ア. 授業力向上のため年2回授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善をめざす。</p> <p>イ. 公開授業週間を通じて、教職員同士で授業観察を行い、授業観察シートを提出させる。</p> <p>②進路実現へ向けた「基礎・応用・実践力の養成」を授業の中で展開</p> <p>※英検など各種資格・検定などへの生徒の興味付けを進め、生徒の学習面での伸びしろを引き出す取組みを行う。</p>	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア. 教員の授業振り返りシートの提出率の維持(H29:100%)</p> <p>イ. 教員の授業観察件数の増加(H29:54件)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の学習指導の平均3ポイント以上の上昇(H29:59.5%)</p>	<p>(1) 授業力の向上</p> <p>ア. 7月及び12月に授業アンケートを実施。授業振り返りシートの提出率は100%であった。(◎)</p> <p>イ. 教員の授業観察件数は昨年度の54件から38件に減少した。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断の学習指導全体の肯定感の平均は昨年度とほぼ同じ61.5%で微増した。(H29:59.5%)(○)</li> </ul> <p>【課題】授業規律は確実に良くなったが、教員の授業力の向上は、引き続き本校の課題である。今後も研修や授業研究を通じて教員の授業力向上を図っていく。</p>

## 大阪府立枚岡樟風高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科</p>	<p>(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する</p> <p>(2) 人権教育の更なる充実</p> <p>(3) 教育相談活動の充実</p>	<p>○「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践</p> <p>ア. 共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する。</p> <p>イ. インクルーシブ・ルームを活用しての教職員研修の実施</p> <p>ウ. インクルーシブ・ルームを活用してのアクティブ・ラーニングなどの授業実践。</p> <p>ア. 新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。</p> <p>イ. 人権HR計画に基づいて、障がい者理解、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。</p> <p>ウ. 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。</p> <p>ア. 教育相談委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進</p> <p>イ. 教育相談委員会と人権教育推進委員会との連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。</p>	<p>ア～ウ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目平均の5ポイント以上の上昇 (H29: 62.2%)</li> <li>・総合学科の卒業率の5ポイント上昇 (H29: 88.8%)</li> <li>・共生推進教室の一斉授業の肯定感の上昇 (H29: 59.5%)</li> <li>・共生推進教室の企業就労100%の継続 (H29: 100%)</li> </ul> <p>人権教育の更なる充実</p> <p>ア～ウ。</p> <p>学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の維持 (H29: 66.2%)</p> <p>ア. 毎月スクールカウンセラーも交えた教育相談委員会の開催</p> <p>イ. いじめ防止委員会の定例化</p> <p>ウ. いじめアンケートの年2回の実施</p>	<p>(1) インクルーシブ教育の実践</p> <p>ア～ウ。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の肯定感平均は65.9%で3.7%増加した。(H29: 62.2%)</p> <p>(△) 目標を上回らなかったが肯定感は上昇傾向にある(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学科の卒業率84.2% (H29: 88.8%) (△)</li> <li>・共生推進教室3年生の企業就労などに100%。(○)</li> </ul> <p>【課題】インクルーシブ・ルームを有効に活用して、ユニバーサルデザインの授業実践など、インクルーシブ教育システムを構築していく。</p> <p>(2) 人権教育の更なる充実</p> <p>ア～ウ。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均は70.6%で4.4%増加した。(H29: 66.2%)</p> <p>(○)</p> <p>【課題】3年間トータルの人権教育計画に基づいた人権ホームルームを展開して、障がい者理解や同和問題、在日外国人問題など、さまざまな人権問題を取り上げ、今後も生徒の人権意識を高めていく。</p> <p>(3) 教育相談活動の充実</p> <p>ア～イ。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の教育相談項目の肯定感平均は66.7%で昨年度とほぼ同じであった。(H29: 67.7%) (○)</p> <p>【課題】これまで通り教育相談委員会を定例化して行う。また、いじめ未然防止のためいじめ防止委員会を定例化する。</p>
---	---	--	--	---

## 大阪府立枚岡樟風高等学校

<p>5. 「地域に開かれた魅力ある学校」を目標に地域社会と連携・協力する総合学科</p>	<p>(1) 地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成</p> <p>(2) 家庭・保護者との連携</p> <p>(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化</p>	<p>(1) 系列やクラブ・生徒会で地域貢献 ○系列での授業やクラブ活動・生徒会の活動を通じて積極的に地域との交流や連携・貢献を行う中で、立案や発表など生徒の社会人基礎力を醸造するとともに、地域から感謝期待される中で自己有用感・自己効力感を高める。 ア. 枚岡中学校区及び縄手北中学校区地域教育協議会との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。 イ. 福祉・保育系列や農と自然系列を中心に旭町子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所との交流を促進し、地域への貢献を果たす。 ウ. 農と自然系列や工業デザイン系列を中心に瓢箪山地域まちづくり協議会との連携を深め、地域への貢献を果たす。 エ. クラブや生徒会が中心となって、地域一斉清掃を瓢箪山地域まちづくり協議会と連携しながら推進し、地域への貢献を果たす。</p> <p>(2) 学校の情報を発信し、PTA活動や学校行事への保護者の参画率を高める。 ア. 授業参観への参画率を高める。 イ. 体育祭や文化祭など、学校行事への参画率を高める。 ウ. PTA活動への参画率を高める。</p> <p>(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア. 校長がリーダーシップを発揮するとともに、首席連絡会、学年主任会議、将来構想委員会、運営委員会、職員会議の連携を強化し、各種会議と分掌・学年間が情報を共有して課題の解決にあたる。 イ. 中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れ、地域から信頼される学校をめざす。 ウ. 将来検討委員会等を充実させ、本校の未来像を確定していくとともに、育む生徒像を明確にし、学校活性化を図り外部にも発信していく。</p>	<p>(1) 系列やクラブ・生徒会で地域貢献 ア～エ. 地域連携の回数の増加 (H29:88回) ・新規の地域連携の回数(H29:23回) ・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均3ポイント以上の上昇(H29:54.6%)</p> <p>(2) 保護者の参画率の向上 ア～ウ ・保護者向け学校教育自己診断において、参画に関する肯定感の平均3%以上の上昇(H29は41.0%) ・学校教育自己診断の保護者提出率の3%以上の上昇(H29:48.0%)</p> <p>(3) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア. 教職員向け学校教育自己診断において、学校経営の肯定感平均の3%以上の上昇(H29:57.3%) イ. 学校説明会の参加者数の10%以上増加(H29:519名)</p>	<p>ア～ウ・地域連携の回数は71回(生徒会2、地域文化6、農と自然3、工業デザイン1、福祉保育11、部活動43、管理職5)(H29:88回)(△) ・新規の地域連携の回数は14回(H29:23回)(△) ・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均は1.9%増加し56.5%であった。(H29:54.6%)(○) 【課題】生徒向け学校教育自己診断の結果は少し増加した。地域連携は年々活発になっており、地元での本校に対する信頼度は確実に上昇している。今後も生徒が地域の幼保小中学校園の児童生徒を教えるなどの企画を積極的に行い、地域から信頼される学校づくりを進めていく。 (2) 保護者の参画率の向上 ア～ウ・保護者の参画に関する肯定感の平均は3.8%増加し44.8%であった。(H29:41.0%)(○) ・学校教育自己診断の保護者提出率は3.0%減少し45.0%であった。(H29:48.0%)(△) 【課題】保護者向け学校教育自己診断の結果は少し減少した。体育祭では100名以上の保護者が見学に来られた。授業参観については、授業参観週間を設定したが参加者は増えなかった。参加者を増やすため、魅力ある企画を計画したい。学校教育自己診断の保護者提出率を今後も上げるようにする。 (3) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア. 学校経営の教職員の肯定感平均は1.6%上昇し58.9%であった。(H29:57.3%)(○) イ. 学校説明会の参加者数は459名であった。(H29:519)(△) 【課題】校長のリーダーシップをさらに発揮できるよう校内組織の連携を強化していく。学校説明会など広報活動をさらに活発にし、本校の魅力を外部に発信していく。</p>
<p>6. 教員の働き方改革について</p>	<p>(1) 全校一斉退庁日の設定 (2) ノークラブデーの明確化</p>	<p>ア. 本校では毎水曜日が全校一斉退庁日となっている。緊急時の対応以外は午後7時までに退庁する。 イ. 部活動を行わない日をクラブ毎に週1回設定をしている。各部活動のノークラブデーを掲示するなど明確化に努める。</p>	<p>イ. 全クラブがノークラブデーを実施できた。(○) 【課題】今後もさらに働き方改革を進めるため、全校一斉退庁日の午後7時までの退庁を勧めていく。</p>	